

カルメル 霊性センターニュース



2017年5月

331号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	20
京都	24
名古屋	26
北陸	27
諸所の企画案内	29
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第三卷

第五章 神の愛の感嘆すべき効果

3 愛の結果

愛する者は、駆け上がり、走り、喜びおどり、自由であり、束縛されない。愛はすべてのためにすべてを与え、すべてにおいてすべてである神を見いだす。愛はすべての善の泉であり、みなもとであり、いと高きお方のなかに休むからである。愛は賜物について考えず、それよりもむしろ賜物を与えるお方に目を向ける。愛はときどき限りを知らず、限りなく燃焼する。愛は重荷を感じることなく、労苦を労苦とせず、自分の力以上のことを望み、不可能を知らない。自分はすべてを成し得る、何事も試してみたいと思うからである。だから何でもする備えがある。愛は、どんなことに着手しても成功するが、愛のない者は、その力の弱さにすぐ失望し、何事も成し得ない。

4 愛と火

愛は眠ることがない、また眠っても警戒し、疲れてもぐったりせず、義務をただ義務としておこなうことなく、脅かされてもうろたえず、生きる炎、燃える松明のように、炎がさまたげを貫いてのぼる。

愛を持つ者なら、その声が何を語るかを悟るであろう。「私の神よ、私の愛よ、あなたはすべて私のものであり、私はすべてあなたのものです」という靈魂の激しい愛は、神の耳にまで立ち上りゆく叫びである。≫

17-5月

呼ばれています

“聖なるもの” になるように

聖なるものになるとは
特別すばらしいことをするというではありません
日常生活の普通のことを
愛と信仰のうちに生きることです。

～教皇フランシスコ～



ファチマの聖母

新緑の美しい5月、教会では伝統的にマリアの月をいわれます。今年は「ファチマの聖母の祝日」とされている5月13日は聖母のファチマご出現100周年にあたります。教皇フランシスコはファチマを訪問されるとのことです。罪人の改心と世界の平和のために犠牲と祈りをささげるようにとのメッセージを聖母は3人の子供たちに託されました。

教会の典礼は月末28日、ご復活後40日間弟子たちと共に過ごされたキリストが天にあげられた昇天を祝います。イエスは天に上げられる前、使徒たちにエルサレムを離れず、「父の約束」を待ちなさい(使徒言行録 1章)と言われ、彼らは母マリアとともに心を合わせてひたすら祈っていました。(1・14)母マリアはイエスについてのまだ新鮮な記憶を祈りのうちに弟子たちと共有し、聖霊の賜物を待ち望んでいました。受肉したみ言葉を生むためにすでに聖霊を受けていたマリアは、教会全体と共に同じ賜物を待ち望んでおられます(ガラ4・19)。その1週間後には聖霊降臨を祝います。平凡な日常生活の中でも、教会の母マリアとともに祈りの時を過ごすようわたしたちも招かれています。



伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

列福式

くのり
九里 彰

今年の2月7日、ユスト高山右近（1553～1615）が列福された。大阪城ホールでの列福式に与った人も多いのではなかろうか。

どれだけの費用がかかったのか。盛大な列福式に与りながら、何か違和感を感じざるを得なかった。それがどこから来ているのか、私の心の中では、今一つはっきりしなかったが、徐々に明らかになってきた。

それは、右近もイエスさまと同様、当時、多くの人々から理解されなかったということである。「人の子が栄光を受ける時が来た」と主がおっしゃった時、その栄光とは十字架上の惨めな死のことであった。人々や弟子たちが思い描いていた王座（マタ 20・21）、この世の栄光ではなかった。

今、私の手元に「ユスト高山右近 ～その生涯と霊性～」というパンフレットがある。最初のページに「いま、降りていく人へ」という一文があるが、それは、信仰にすべてを賭けた63年の彼の生涯を見事に要約している。

我が国の歴史は、四百年前の戦乱に明け暮れた下剋上の時代、誰もが己の力と才、そして謀略をもって、上へ上へと のぼり詰めようと鎬を削りあう戦国の世に、一枚一枚と重い鎧を脱いでいくように、一人黙々と降りていった人を記憶しています。

「上へ上へと上り詰めようと鎬を削りあう」傾向は、戦国時代に限らない。いつの時代にあっても、偉くなろうとするのが「この世」の常であろう。士農工商の身分制度の時代が終わると、特に戦後の民主化の時代、日本人は皆、一流大学の門を目指して殺到した。いわゆる受験戦争である。武力ではなく、知力で鎬を削ったわけである。上に立てば、名誉と富が手に入り、社会的にも経済的にも満ち足りた生活が保障される。これは学問の世界、芸術の世界、スポーツの世界、政治経済の世界でも、まったく同じであろう。

このたびユスト高山右近は列福された。いつの日か列聖されるだろう。「この世」的に見れば、教会の中で高い地位にのぼり詰めるわけだが、その生涯は、まさにその逆、低く低く下っていくものだった。

それはあたかも、人間の姿で現れて僕の身分となり、人間と同じ者になられたキリストの様に。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (113)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「義人老シメオン」

十字架のヨハネがトレドの牢獄にいた時、彼は、「はじめにみ言葉があった」という福音の言葉に関する大きな物語詩を書きました。それは、短い救い歴史のようなものとなりました。彼は聖人や預言者たちのメシア待望について語った後に、シメオンを登場させます。

かくて 聖霊は
老いた義人に 応えて
こう 約束した。
「死を 見ることは ないだろう、
上から 降った いのちを 見、
自分の手の中に
神ご自身を 取り上げ、
自分の腕に かかえ、
自分で 抱きしめるまでは」。 (211~220)

清めの祝日の日、バエサで、十字架のヨハネは聖務を行なっていました。そして、ろうそくを祝福した後、彼は恍惚状態に陥り、前に出てゆくと、聖母の腕にある幼子を取り上げ、「行列の間中、聖シメオンの熱望を態度によく表しながら、幼子を抱いていました」。

ここには、その神秘を思いめぐらすあまり、「老いた義人」と一つになった十字架のヨハネの姿が見られます。聖テレジアが、マリア様イエス様とシメオンが出会う福音の場面（ルカ 2・29）について語る時、ろうそく行列の中でそう考えていたことを知ることは、賞讃に値します。聖女はこう言っています。「義人シメオンもやはり貧しく小さな”栄えある御子”以外の何ものも見たわけではありません。その子をくるむ産衣や付添人の数の少なさから推して判断するならば、永遠の御父の御子というよりは、貧乏人の息子と思ったことでしょう」（『完徳の道』 31,2）。

復活節 第4主日 (A) (ヨハネ10:1 ~ 10)

復活節第四主日は、新しいカトリックの典礼のカレンダーでは、一般に「よい羊飼いの主日」と言われています。最近ではこの日はまた「召命の主日」としても知られています。この日、司祭や修道生活への召命のために祈るからです。

このよい羊飼いの喩えでは、羊飼いと羊との緊密な関係を強調している一方、イエスはご自分が羊の門であると言っておられます。聖書のこの箇所では、ヨハネはイエスの称号をよい羊飼いとしています。羊は羊飼いの声を聞き、自分の羊飼いであることを見分け、ほかの人にはついていかず、この羊飼いに従い続けます。更に前に、イエスはご自分が羊のために命を投げ打つよい羊飼いであるとも言っておられます。イエスはよい羊飼いであり、雇われ人ではないのですから、羊と共にとどまり、自分の羊のためにすすんで命を与えます。イエスは、ご自分の羊が他の人にはついていかず、羊飼いであるご自分にだけついてくることを知っています。よい羊飼いであるイエスは十字架上で死んで、自分の羊のために命を与えます。よい羊飼いは、いつでも自分の羊に気を配ります。彼は、世界の罪を取り去る神の子羊です。あわれみの主はご自分の羊と共に行き、羊を集め、よい牧草地に連れ戻すと約束します。

この日は、「召命の日曜日」とも呼ばれています。この日、私たちは特にまず第一に福音宣教の仕事をする指導者たちが与えられるように祈ります。事実、私たちは一人ひとりが召命を持っています、私たちは神から配偶者、親、教師、医者、役人、経営者、セールスマンなどになるように呼ばれています。これは神への忠誠を必要とする呼びかけであり、個人的に選ばれた仕事です。神は福音のために働くように私たち一人ひとりと呼ばれています。今日、教会は神の呼びかけの意味を考え、召命のために祈るように招いています。このことは全てのキリスト教徒の共同体が召命を育てる責任を分かち持っていることを思い出させます。教会は宗教上の兄弟姉妹として、心、精神、体、靈魂の奉献を通して、修道生活の美しさを強調するように求めます。

よい羊飼いの主日を祝うとき、私たちが主のよい羊となり、主の声を注意深く聴き、自分を与える主の模範に従えるように祈りましょう。そしてまた私たちすべての羊、特に宗教上、政治上の指導者たちのために祈りましょう。ご自分の羊のために喜んで奉仕し、いのちを投げ打ったイエスの模範に従うことができますように。私たちの羊飼いであるイエスは、道であり、真理であり、命です。きょう、他の多くの魅力的なことを犠牲にしてイエスの司祭になり、また修道生活でイエスに従って、多くの人が真の愛を示すように励ます司祭職や修道生活への召命のために祈りましょう。

(Sr. Paulina)

復活節 第5主日 A

「私は道であり、真理であり、命である」(ヨハネ 14:6)

今日の福音のヨハネ 14 章はイエスの訣別の辞とも言えるものです。イエスは自分の始めた運動(地上に神の国の建設を図る)の結果を見ないで世を去ろうとしています。弟子たちに「心を騒がせるな」と告げられます。イエスご自身心を騒がせたのになぜこう仰るのでしょうか。12 章 27 節に「今、私は心騒ぐ。なんと言おうか『父よ、私をこの時から救ってください』い」と言おうか。しかし私はまさにこの時のために来たのだ」とあります。13 章 21 節には「イエスは心を騒がせ、断言された。『はっきり言っておく。あなたがたのうちの一人が私を裏切ろうとしている。』」と出ています。いずれも時間系列では今回の個所の前の出来事です。

しかし事実、弟子たち(私たちの代表)が心を騒がせる必要はないのです。主が先に行かれるからです。イエスが場所を用意してくださいました。しかも「父の家には住むところがたくさんある」そうなのです。つまり天国は許容範囲が大きいと思われます。

トマスは具体的で手に触れられるようなものを求めます。トマスにはイエスの語り方が比喩のようであり、抽象的すぎる神学的議論のように聞こえたのでしょう。そこで「私は道であり、真理であり、命である」と答えます。道、真理、命はイエス以外にはないと言う意味ですから、「私が道であり、真理であり、命である」と訳してある聖書もあります。この方が分かりやすいかもしれません。イエスは通る道であり、同時に目的地でもあります。つまり、私たちの生き方そのものを示し、導く方です。

フィリポも「神を見せてください」と頼みます。彼は、モーセやエリアが神を見たように、イエスのそばにいる者は神を見られると考えていたのでしょう。実際、御変容の時、3 人の弟子が御父の声を聞きました。

これに対して「私を見た者は父を見たのだ」と断言されます。神だからこそ言える言葉です。またイエスが父と等しい方だと信じられなければ「業そのものによって信じなさい」と言われました。イエスほどたくさんの大きな奇跡をおこなった人はいません。これはほかの宗教の人にも認めているほどです。しかもイエスを信じる者はイエスが行った以上の業を行うようになるという驚くべき言葉を述べられました。これは世界宣教を指すと解釈されます。キリストとともにいる時、キリストが生きて私たちの中で働いてくださいます。(新井)

復活節第6主日(A) (ヨハネ 14:15-21)

今日の福音は神である聖霊がいつもわたしたちと共にいてくださるという宣言です。

イエスは弟子たちを呼び集め、イエスの掟を守るようにとお教えになります。もし真実にイエスを愛しているなら、その掟を守りその望みを実行するであろうと仰います。ヨハネは従順によってのみ愛を証しすることができると言っています。イエスが天の御父への愛を示されたのも従順によってでした。わたしたちも従順によってイエスへの愛を証ししなければなりません。しかしイエスを真実に愛することは容易なことではありません。この愛は完全な従順、自分を全く棄てただ相手の益のためにのみ行う従順へと導くものです。イエスはわたしたちのためにもう一人の弁護者、慰め主を送ってくださることを約束してくださいました。御父に嘆願してくださる弁護者、真理の霊です。

神の愛はもう一人別の弁護者を送ってくださることをイエスは弟子たちに説き明かされます。この方は父の許から来られる真理の霊、イエスに代って神を証ししてくださる方、世の終わりまで弟子たちと一緒におられ、その賜物と恵みの内に弟子たちを励まし勇気をつけてくださる方です。聖霊の賜物がキリストの弟子たちに注がれます。これは神がその選ばれた民にお与えになる愛の贈り物です。聖性と真の幸せの源泉としての真理の霊は、世の終わりまですべての神を信じる人々の内にお住まいになります。

神が与え得る最上の贈り物である聖霊はいつも共にあって、必要なときには慰めを、困難なときには助けを与え、苦闘しているときにはわたしたちに代って話して下さいます。聖霊は人が思っている以上にずっと静かで単純ななんでもお出来になる方です。霊的生活の全て、聖性の全ては御父からイエスを通して聖霊が行ってくださることを忘れてはなりません。日常生活の中で時々このことを思い起こして心を潜め聖霊との交わりを大切にするとき、わたしたちはその豊かな実りを体験するのです。聖霊は日常の何気ない親切やお互いを気遣う心の内にも現存し、神は一人ひとりの聖霊の現存のもたらす超自然の霊的な喜びを与えたいと準備しておられます。神の掟に完全に従いたいと愛によって自分の全てを捧げるときにはいつも聖霊の現存を体験するでしょう。

(Sr. Paulina)

主の昇天

(マタイ 28 : 16 - 20)

復活節も段々と残り少なくなってきましたが、私たちは主の昇天をお祝いします。それはイエスが天に昇られ、弟子たちのもとを離れ、天の御父のもとに帰られたことを意味します。復活さの後、弟子たちを励ますために、婦人たちを慰めるために、人々をカブけるため、幾度となく現れて下さったイエス。そのイエスが天に戻られたのです。

さて今日の福音では、弟子たちがガリラヤ行き、イエスから示された山に登った際の出来事が語られています。そこで弟子たちはイエスとお会いしたわけですが、イエスの前にひれ伏した弟子の中には、疑う者もいたと述べられています。

イエスと一緒に過ごした弟子たち。そして復活されたイエスと出会った弟子たち…。しかし弟子たちの中にも、イエスの復活を信じるができなかった者もいたのですね。そんな人もいた弟子たちにイエスは、全ての民を弟子にする様に、父と子と聖霊の名によって洗礼を授ける様に、弟子たちに命じたことを全て守る様に教える様に言われます。

そして、このマタイ福音書では語られていませんが、弟子たちのもとを離れイエスは天に戻って行ったわけです。今日の個所の最後のイエスの言葉、それはマタイ福音書の最後のイエス言葉であり、この言葉で福音書が終わります。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」これは私たちにとって、どれほど大きな言葉でしょうか。

イエスは弟子たちを通して、全ての民をご自分の弟子にして、その民に洗礼を授け、また教えようとなさいました。人を通し、福音宣教という業を通して、神の国を広げてゆかれようとされました。

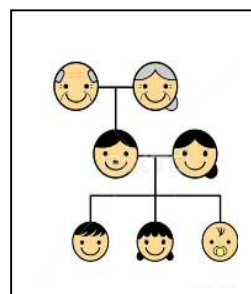
この計り知れない神のご計画・御業の中で、私たちは福音を人から告げ知らされて、神を信じて洗礼を受け、私たちは神の子とされ、そして私たちの言葉や行いを通して、弟子たちの様に人々に「良き訪れ」、福音を告げ知らせてゆく者として歩んでいます。

「いつもあなたがたと共にいる。」このイエスの言葉の力強さのうちに、余韻のうちに、響きのうちに、今日もイエスと共に歩みだしてゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

糸巻き棒からペンへ(20)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え



エドゥアルド・サンス OGD

聖女だけでなく兄弟達も、自分たちの先祖について語ることはとても控えめであったので、聖女の死後、カルメル会士たちは、系図の専門家を雇い、アヴィラの生家に保存されている系統樹と同じものを彫った大きな絵をこしらえました。そこでは、ジブラルタルの攻略においてアルフォンソ 11 世に男たちと共に付き従ったヴァスコ・ヴァスケス・デ・セペダ卿の父にまで遡らせ、スペインの歴史における他の偉大な人物たちと姻戚関係になっています。長い間、テレジアは「血統書付きの聖人」としてスペインでは知られていました。

実際は、1946 年、ヴァヤドリッドの最高裁判所の書類の束の中に、聖テレジアの父方の祖父が異端裁判所とトラブルを起こしたユダヤ教改宗者であることを示すいくつかの書類が見つかり、その要約が公表されました。しかし、その書類は不思議なことに紛失してしまったため、多くの人はその事実を信じることを拒みました。けれども、1986 年、セペダ家の郷士の身分に関する訴訟が同じ場所で、同じ謎を秘めて、再び見つかりました。それによって、彼女の祖父や父や叔父たちは、出自のことでこうむった不名誉を忘れるため、トレドからアヴィラへ引っ越したことが分かります。城塞都市で、彼らは歴史的に重要な大きな家と郷士の身分に関する偽の証明書を買いました。この証明書によって彼らは税金の支払いを免除され、他の特権を獲得し、また彼らが持っていない身分、すなわち旧キリスト教徒*という身分を装うために、築いた一財産を浪費することにはげみました。

*旧キリスト教徒:ユダヤ教徒やイスラム教徒を先祖に持たない生粋のキリスト教徒のこと

ホアン・サンチェスの息子たち—テレジアの父親も含まれる—は、低い身分の貴族の娘たちと結婚し、父親の姓を妻の姓に変えました。アビラで、彼らはその時代の騎士の生活を送りました。高価な生地を着、多くの召使いを従えて市内を闊歩し、山に狩猟に出かけ、季節には田舎の旧家で過ごし、もちろん、家族の「名誉」を汚す肉体労働は一切しませんでした。

(続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2017年04月04日

ペルーの洪水



ペルーのカルメル会の兄弟姉妹たちは、全国を襲った洪水の被害をこうむっています。とはいえ、アルフレド・アメスティ管区長の連絡によれば、壊滅的な被害ではないということです。

もっとも被害の甚大な地方は、ペルー北部ですが、そこにはトゥルヒッジョに男子修道院と女子修道院、ピウラに女子修道院があります。しかし、洪水と浸水は深刻ではありませんでした。

南部にはカニェテに聖ヴィンセント修道院がありますが、おかげさまで、土石流（土地の言葉ではウアイコ・エン・ケチュア）は近くを通り過ぎただけで、被害をкаろうじてまぬがれました。

リマのいくつかの共同体は、断水や停電だけですみました。アルフレド管区長は、事態が良くなるようにと祈ってくださったすべての方々に、またもっともひどい被害にあった人々を助けるために国内へボランティアとしてかけつけた人々に、感謝しています。

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

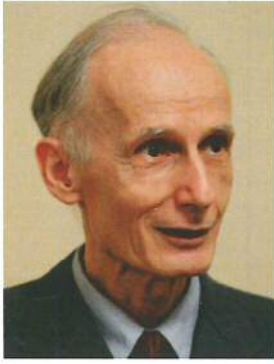
2017/4/10

A Marian Congress in Fatima, Portugal

The Order of Carmelites and that of the Discalced Carmelites, prompted by the celebration of the first centenary of the apparitions in Fatima, have decided to call an International, Marian Congress as one family as an offering to the whole Church, in order to revitalise our Marian spirituality, since Carmel is all of Mary.

It was through her inspiration and protection that, in the XIIth century, the first hermit-friars came together on the summit of Mount Carmel to foster their relationship with the living God. With great joy, our brothers of the Teresian Carmel invite us to this Congress, with the support of the Superior Generals of both Orders, which will take place from 15th – 17th September in Fatima, Portugal.

Further information with regard to the Congress can be found at: <http://www.congressomarianocarmelita.com>, in Portuguese, Italian, French, English and Spanish.



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかがわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

本棚を整理して本をたくさん捨てました。

10年ほど前にも同じように本を処分したのですが、その時のことを実は本誌236号に書き記しています。

身勝手にもほどがあるというのに、遠藤周作の「わたしが・棄てた・女」をもじって、「わたしが・棄てた・本」などと題して（遠藤氏にはほんとうに申し訳なく恐れ多いことでした）本を捨てることの何とも辛く切ない忍びない気持ちを述べました。本を捨てることは私にとっては、ここに書き記したくなるほどの大きな、心に響く、心を占める出来事であるのです。

本を捨てたりはしたくないのです。しかし、本というものは何故か大変な勢いで増殖するので、狭い狭い限られた場所の中では生活に支障をきたし、もうどうにもこうにも致し方ないのです。10年に一回くらいは身を切られる思いで大整理を余儀なくされてきました。今回は、たまたま来宅していた息子さんのお嫁さんが、労働作業の助っ人を買って出て、エプロン、マスク、手袋姿で雑巾を手に、力仕事をしてくれたのですが、「さあ！思い切りましょう さあ！捨てましょう」と声をかけるので、先のように一冊一冊を手にして、くよくよと未練がましく思い悩むひまはありませんでした。お陰でずいぶんと片付けたつもりだったのですが、終わってみれば場所が空くところまではとてもゆかず、「見た目はすっきりしましたね」と、助っ人の言葉通りの程度でした。

本といっても殆どが小説であり、それも「恋愛」とか「殺人事件」の類が多く、再び読み返すものは実際無いに等しいのです。

純文学の薫り高いものも好きですが、二度も三度も読むものはほんのほんの少しです。いずれにしても全ては快樂の貪りの結果なのですが、それでも本は捨てるたくありません。10年前にも同じように書いていますが、読んだ本は単なる紙の重なりではなく、たとえ快樂の貪りでしかないにしても、何らかの要素をもって私の内を動きまわり、何らかの要素をもって身になじんだものなのです。一冊たりとも手放したくないという気持ちです。

更に思ってみれば、私は本だけに限らずこの身になじんだものをなかなか捨てることができずにいます。今流行りの断捨離とやらは、ほんとうに下を向いて恥じ入るしかありません。

しかし今回の大整理は、実はこれまでと少し違った気持であることに心を致しています。

近頃よく目にし、耳にする、見なれない聞きなれない言葉があります。

「就活」とか「婚活」とか「終活」とか……。就職活動、結婚活動、終末活動というのでしょうか。若い時代、若い人たちは世相を映す奇抜な言葉をよく現出させるものと感心するのですが……。

この度の本の整理はこの謂いでいうと「終活」のひとつといえるのでしょうか。ことさらに終わりを意識してのことではないのですが、次の10年後、このような大整理は先ずないと思うのが当然です。そうであるのなら間違いなく「終活」なのだと思っています。

そういえば私はこの10年ほど、日頃から意識して手紙、日記の類を捨てているようです。私自身、身内を送った経験からも、手紙やノート、本などは、後に残された者にとっては最も困るものに類します。

これらは深く個人の匂いが染み入って、本人以外は甚だ捨て難いものなのです。他の者が捨てるには大変なエネルギーが要ります。残された者の誰かは、故人を愛おしく忍び、放し難く手元に置いておくのかもしれませんが、それもいずれは後のことを考えれば、やはりその人は故人を自分の身に引き受けて、いつかは処分するのだと思います。

今この時、桜の花が満開です。

花の下で同年代と行き合うと、「来年もこの桜見られるかしら 保証はないわね」と言葉を交わします。昔はこんな挨拶は互いになかったことでした。

自分たちの生命は、桜の花と同じように真っ盛りだったでしょう。

ここにも「終活」があると思いました。

満開の桜の下で思いを深めます。

たとえ来年、この桜を見ることがないとしても、きっとこの桜は咲くのです。私がいなくなったこの世に、今日の日と同じように桜の花は満開となるでしょう。そのことに心の底からの感動があります。わが身の限りと、それを覆って余りある遙かな希望と、そうあらしめる愛を思います。

手紙や日記や本などを整理することは、この希望と愛の内にあるのだと心深く思うのです。

もう間もなく花が散り、世界は初々しい柔らかな若葉へと移りゆきます。

いのちの言葉 5月

わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる

(マタイ 28・20)

福音史家マタイにとって、イエスは、預言者によって語られ、イスラエルの民がずっと待ち望んできた「インマヌエル (=わたしたちと共におられる神)」に他なりませんでした。

マタイの福音書の終わりには、イエスの地上での生活の最後、復活しその使命を全うされた出来事が語られています。イエスは、御父のもとに戻られる前、生活を共にしてきた弟子たちを呼び寄せ、ご自分が行ってこられた^{わざ}業を、これから^{のち}後引き継いでいく使命を、彼らに委ねられました。

何と偉大な使命でしょう！

さらにイエスは弟子たちに、毎日共にいて「世の終わりまで」彼らを支え、寄り添い、力づけると約束して下さいました。

こうして弟子たちは、イエスに助けられながら、その言葉を伝え、すべての人を慈しみ、温かく受け入れ、イエスを証ししました。たくさんの方がイエスに出会い、相互愛の掟を共に生きる新しい民が生まれることこそ、イエスご自身のお望みだからです。神さまの喜びは、私、あなた、そして私たちみんなと、いつも共にいることなのです。

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる

では、私たちもイエスにお会いできるのでしょうか？

キアラ・ルービックは次のように言っています。

「実際、イエスは私の傍にも、あなたの傍にもおられます。また、貧しい人、軽んじられている人、小さな人、病気の人、助言を求める人、自由を奪われた人、社会から疎外された人の中にもイエスはおられます。

そして『私が飢えていたときに食べさせてくれた』¹とおっしゃいます。私たちもそこにおられるイエスを発見しましょう」²と。

イエスは又、み言葉のうちにもおられます。み言葉を生きるとき、私たちの生き方は変えられ新たにされるのはそのためです。

地上のいたる所に存在するご聖体のうちにもイエスはおられ、教会の権威者を通して働かれます。

また、みなが心を一つにするなら、そこにもイエスがおられ³るので、御父への私たちの祈りは効果をもたらし、光を受け、どのように歩めばよいかを分から

せて頂けるでしょう。

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる

このイエスの約束は、たとえ私たちがどんな状況におかれたとしても希望を与えてくれるものです。

家庭や教会、職場、様々な機会に、イエスと出会うために、もっと心を広げ、すべての人を受け入れてみてはいかがでしょうか。喜びと光を体験するなら、それはイエスがおられるという確かなしるしです。

毎朝「今日もイエスがどこかで私を待っていておられる」と考えてみてください。思いがけない喜びの体験が待っているかもしれません。

ある方の体験です。「姑は、息子可愛いさのあまり、嫁の私に嫉妬心を抱くほどでした。しかし、ほどなく彼女はガンと診断され、治療と付き添いの人が必要になりましたが、義妹は事情があり母親の世話はできませんでした。

ちょうどその頃、私は友人に誘われてマリアポリに参加し、そこで神さまの愛に出会い、その時から私の生活は変わりました。

私の回心の最初の実りは、姑を家に迎えることでした。不安もありましたが私の心にともった愛の火によって、彼女を新しい目で見ることができました。自分がお世話するのは、彼女の中のイエスだと分かったからです。

意外にも姑は、私の愛の行い一つひとつに答えてくれるようになりました。

数ヵ月後、安らかに天に旅立った姑は皆の心に平安を残してくれました。

その数日後、私は自分が妊娠していることに気づきました。9年も待ち続けた赤ちゃんの誕生は私たち夫婦にとって、神さまの愛の、目に見えるしるしとなりました。」

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

関東 5月14日(日) 13:30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 5月14日(日) 14:00～ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや

長崎 5月28日(日) 11:00～ カトリック浦上教会 要理教室

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: coni1157ch1.wix.com/focolare-jp

¹ マタイ 25・35 参照

² キアラ・ルービック 1982年6月「いのちの言葉」参照

³ マタイ 18・20 参照



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/退屈/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋の霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

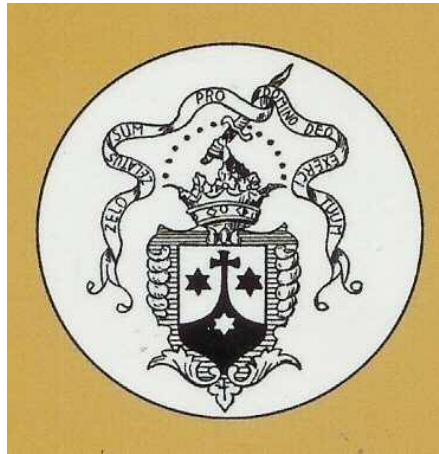
カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛靈性センター 2017年4月～2018年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

5/12(金)、5/25(木)、6/15(木)、6/30(金)、7/7(金)、7/20(木)、
9/21(木)、10/27(金)、11/10(金)、11/30(木)、12/7(木)、
12/22(金)

2018年

1/11(木)、1/26(金)、2/8(木)、2/23(金)、3/8(木)、3/23(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

8月 1日(火) 17時～	8月10日(木) 朝	福田正範神父
8月16日(水) 17時～	8月25日(金) 朝	福田正範神父
12月27日(水) 17時～	2018年1月5日(金) 朝	福田正範神父

4. 奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2017年

10月10日(火) 17時～	10月19日(木) 朝	福田正範神父
----------------	-------------	--------

5. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時

カルメル会士

6. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時

カルメル会士

7. 特別黙想会 S r. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時： 2017年 5月12日(金) 午後1時30分～午後4時
5月25日(木) 〃
6月15日(木) 〃
6月30日(金) 〃
7月 7日(金) 〃
7月20日(木) 〃



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

新刊案内

三位一体の聖エリザベツト
いのちの泉の
ほとりにて

伊従信子



ドン・ボスコ新書

2017年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

1月7日(土)～8日(日)	真の幸いへの道	中川博道神父
7月15日(土)～16日(日)	ロサリオの道：キリスト者の歩み	中川博道神父 (仮)
10月7日(土)～8日(日)	テレーズと共に生きる	中川博道神父 (仮)

【聖書深読黙想会】 1日(午前10時～午後4時)

1月14日(土)	7月1日(土)	中川博道神父
3月11日(土)	9月23日(土)	中川博道神父
5月27日(土)	11月25日(土)	中川博道神父 (仮)

【水曜黙想】 (午前10時～午後4時)

1月18日(水)	社会の中でキリストに従う (1)	松田浩一神父
2月22日(水)	社会の中でキリストに従う (2)	松田浩一神父
3月15日(水)	家族の保護者聖ヨセフに習う	Sr.ロサ
4月19日(水)	復活したイエスをさがす教会	中川博道神父 (仮)
5月17日(水)	ファティマの聖母	松田浩一神父 (仮)
6月7日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる (1)	松田浩一神父 (仮)
7月5日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる (2)	松田浩一神父 (仮)
9月6日(水)	嵐の中で試される信仰	Sr.ロサ
10月18日(水)	聖なるミサ 聖祭と聖母マリア	松田浩一神父 (仮)
11月29日(水)	「ラウダート・シ」を生きる	中川博道神父 (仮)
12月13日(水)	十字架の聖ヨハネの新しい人間	松田浩一神父 (仮)

【聖テレーズの黙想】 (午後5時～午後4時)

9月30日(土)～10月1日(日)	テレーズ帰天 120周年	松田浩一神父 (仮)
-------------------	--------------	------------

【キリスト教霊的同伴】 午後8時～午後3時まで、(金)夕食なし

1月27日(金)～28日(土)	7月7日(金)～8日(土)	松田浩一神父
2月24日(金)～25日(土)	9月1日(金)～2日(土)	松田浩一神父
3月17日(金)～18日(土)	10月20日(金)～21日(土)	松田浩一神父
4月7日(金)～8日(土)	11月24日(金)～25日(土)	松田浩一神父
6月2日(金)～3日(土)	12月15日(金)～16日(土)	松田浩一神父

【四旬節の黙想】 (午後5時～午後4時)

3月18日(土)～19日(日)	真に生きる道を探して	中川博道神父
-----------------	------------	--------

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月2日(土)～3日(日)	神の秘められた計画	松田浩一神父 (仮)
----------------	-----------	------------

【カルメル青年の集い】 (午前 10 時～午後 4 時)

6 月 4 日(日)	キリストの過越しの実り 聖霊降臨	松田浩一神父 (仮)
11 月 23 日(木)	キリスト者の聖性の道	松田浩一神父 (仮)

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】 (午後 5 時～午後 4 時)

2 月 10 日(金)～11 日(土)	カトリック教会の教えとイエスの聖テレジアの霊性	松田浩一神父
5 月 2 日(火)～5 日(金)	カトリック教会の教えとカルメル観想生活	松田浩一神父 (仮)
10 月 14 日(土)～16 日(月)	イエスの聖テレジアの「自叙伝」(2)	松田浩一神父 (仮)
12 月 13 日(水)～14 日(木)	十字架の聖ヨハネの新しい人間(2)	松田浩一神父 (仮)

【奉献生活者の黙想】 (午後 5 時～午前 9 時)

8 月 7 日(月)～16 日(水)		中川博道神父 (仮)
8 月 18 日(金)～27 日(土)		松田浩一神父 (仮)
11 月 7 日(火)～16 日(木)		中川博道神父 (仮)
12 月 27 日(水)～1 月 5 日(金)		松田浩一神父 (仮)

【English Retreat】 (10am to 4pm)

3 月 4 日(土)	Cross is the hope for our life.	Sr.Rosa
6 月 10 日(土)	A day with St.Therese	Sr.Rosa
11 月 18 日(土)	A pilgrimage to Jerusalem with Magi	Sr.Rosa

【祭日のミサに参加するために】

<聖週間を祈る> (講話なし、各食事付き)

4 月 13 日(木)～4 月 16 日(日) チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前 11 時
(聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。)

<クリスマス> (講話なし、各食事付き)

12 月 24 日(日)～12 月 25 日(月) チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前 11:30

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前 9 時～午後 5 時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

— 現代人へのメッセージ —

5月20日（土）午前10時～午後4時

講師 須沢かおり氏

「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」

場所 カトリック日比野教会 信徒会館

（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分）

参加費 1000円

持ち物 聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

申込み 下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り

2017年度日程と講師「テーマ」

- ✧ 5月20日（土）須沢かおり氏
「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」
- ✧ 7月17日（月）松田浩一神父
「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる
—三位一体のエリザベトと共に—」
- ✧ 9月23日（土）片山はるひ氏
「エリザベトと共に生きる
—永遠の光の もとで—」
- ✧ 11月25日（土）Sr. ポーリン・フェルナンデス
「三位一体のエリザベトによる
『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

《特別黙想会》

日時：2017年12/9（土）16時半受付～翌日16時

「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

申込み：宇治聖テレジア修道院（黙想）

Tel：0774-32-7456 Fax：0774-32-7457

プログラム

- 9：45 受付
- 10：00 導入の祈り（聖堂）
- 10：20 第一講話（信徒会館）
- 11：30 念 禱 *
- 12：00 昼 食（信徒会館）
- 12：30 念 禱 *
- 13：00 第二講話
- 14：00 念 禱
- 14：30 ミ サ（聖堂）
- 15：30 茶話会（信徒会館）
- 16：00 終了の祈り

*希望者は赦しの秘跡または面接を受ける事ができます

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

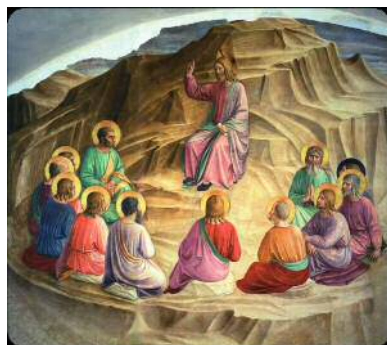
真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時?15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5:7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5:4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5:5)
- 5月11日 義に飢え渇く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5:6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5:7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5:8)
- 8月 休み
- 9月14日 平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11:27? 28)
- 12月14日 見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20:29)

指導者 ロック 神父

? 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻湊1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2017年～2018年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度:理性と神認識ー古代と中世において
夏学期:5/6、5/27、6/3、6/10、6/17
6/24、7/1、7/8、9/2、9/9、9/16

●神学読書会

第2・第4木曜日:18時-20時
上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。

・ミサ:上記読書会後20時-20時45分 クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分-20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。
・「通う霊草」8月26日(土)-9月3日(日)18時-20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

5月20日(土)10時-21日(日)14時(上石神井)、11月11日(土)-12日(日)(上石神井)、2018年3月17日(土)-18日(日)(上石神井)、1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。
[関西] 9月30日(土)13時30分-10月1日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分-16時 上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2017年
5月27日、7月22日、9月16日、10月14日、11月25日、
2018年
1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分-16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日:18時00分-20時00分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●坐禅接心

8月12日(土) 20時20分-16日(水) 8時30分
11月1日(水) 20時20分-5日(日) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。

[関西]

7月30日(日)17時45分-8月5日(土)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時-18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
4月22日(土)、6月24日(土)、10月21日(土)
2018年1月27日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2017-18年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 5/12 理性と神認識の道—世界内存在を通して
5/19 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
5/20-21 ●黙想会(上石神井)
5/26 歴史と信仰—神との出会い
6/02 内なる神—その「似姿」としての人間
6/09 新約聖書の神理解—主なる父
6/16 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
6/23 救い主の役割—人類の待望
6/30 神の国—イエスの告げるメッセージ
7/07 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
7/14 イエスのたとえ話—神の働きを語る
7/21 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
7/28 イエスは誰か—イエスの自己理解
7/29 ◆感謝のミサ(15時、上智大学内
 クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
8/04,11,18,25 ○休み
8/26-9/03 ●通う霊操(18時-20時45分)
 (上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/01 イエスの死—その救済的意義
 (上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/08 聖書のイエス像—ヨハネとパウロの見た
 イエス
9/15 イエスの復活—今に生きるイエス
9/22 聖霊—神の愛に導かれる
9/29 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関
 わる

キリスト教理解講座 2017-18年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [人生の基礎づけ]
5/2 人生の目標—神の「似姿」としての真なる人間
5/16 人間以外のものの意義—世界の使用と聖化
5/20-21 ●黙想会(上石神井)
6/6 創造・歴史・救い—イエスという中心
[倫理的行為]
6/20 行為の規範—人間らしさと神の呼びかけ
7/4 自己実現—責任と自由
7/18 性格の形成—自己受容と善への憧れ
7/29 ◆感謝のミサ(15時、上智大学内
 クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
8/1,15 ○休み
8/26-9/03 ●通う霊操(18時-20時45分)
 (上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/5 人間の弱さ—罪とゆるし
9/19 有意義に生きる基盤—信仰と希望

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

講話と祈りの集い

上石神井

5月27日（土）午後2時～午後5時30分

担当：片山はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

参加費 200円

テーマ：第15章 「母マリア 愛への忠実」



四ツ谷 Week End Emao

上智大学 2号館1階 カトリックセンター

6月24日（土）午後2時～午後5時30分

担当 片山はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

参加費無料

テーマ：第14章 「 聖霊に遣わされて」



毎回、テキスト『神と親しく生きるいのりの道
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』

（聖母文庫 本体500円＋税）を用いて、
講話をすすめています



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

『片山はるひ宛』でお願いします。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
入門B	5/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ Tel.090-5325-2518 045-577-0740
自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日	5/20(土)9:30- 21(日)17:00 5/27(土)9:30- 28(日)17:00	Fr植栗	エスコラピウス修道女 会修道院 (世田谷区弦巻)	同上
沖縄 サダナ I	6/1(木)17:30- 4(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr.名嘉山	
沖縄 フォローアップ	6/5(月) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	
フォローアップ	6/11(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ Tel.090-5325-2518 045-577-0740
サダナ I	6/15(木) 17:30- 18(日)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区上石神井)	同上
入門C	6/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017年 5月 6日(土)～ 5月14日(日)
- ② 8月14日(月)～ 8月22日(火)
- ③ 10月 9日(月)～ 10月17日(火)
- ④ 12月27日(水)～ 2018年1月 4日(木)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017年 2月 3日(金)～ 2月5日(日)
- ② 2月24日(金)～ 2月26日(日)
- ③ 3月17日(金)～ 3月19日(日)
- ④ 6月16日(金)～ 6月18日(日)
- ⑤ 7月14日(金)～ 7月16日(日)
- ⑥ 9月15日(金)～ 9月17日(日)
- ⑦ 11月17日(金)～11月19日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2017年 5月30日(火)～6月7日(水) 阿部 仲麻呂 師 (サジゴ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ますか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

—おことばのとおり、この身になりますように—

2017年度 第2回 女子青年黙想会

日時： 6月10日(土) 15:00～

11日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年6月4日(日)まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

—12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌— 終了

【2017年予定】

—1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌— 終了

—3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌— 終了

5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌

7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8の歌

9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第9の歌

11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌

12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



<<特別黙想会>>

日時：2016年12月16日(土) 4時半受付～17日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：靈性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google：「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

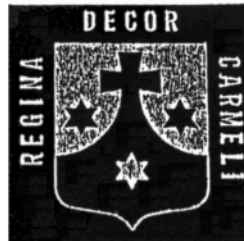
2月中旬、カルメル修道会の管区長職を大瀬高司神父と交代し、現在、私は宇治修道院に居住している。新管区長の意向で、『カルメル靈性センターニュース』の拠点を、私のいる宇治に移すこととなったが、何しろ発刊以来、30年余、上野毛で編集印刷、製本発送、会計処理を行なってきたので、宇治にはその体制がいまだ整っていない。

移行措置として、5月号と6月号のみ、従来通り、上野毛で行い、7月号以降の作業は宇治で行うこととなった。故奥村一郎神父により、B5一枚で始まった本誌も、先月で330号となり、年11冊発行とすれば、単純計算で30年となる。

これまで長い間、多くの人々の善意によって、この出版事業を支えていただいたことを改めて感謝したい。また現在、購読してくださっている読者の皆様や、たびたび献金してくださっている皆様にも心からの感謝をささげたい。

カルメル会のささやかなこの小冊子が、今後も、多くの人々のため、教会のために役立つものとなっていくよう、主キリストが導いて下さるよう、聖母マリアの取り次ぎを祈りたい。

(P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「6月号」製本日

5月30日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階

午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171